

キッズ ふくしま インタガダ

(発行)

キッズふくしまインタガダ実行委員会

(事務局)

〒943-0892

新潟県上越市寺町2-24-4

真宗大谷派高田教務所内

TEL:025-524-3913/FAX:025-524-2645

URL:<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>



8回目のキッズふくしまを終えて

キッズふくしま実行委員

高田教区第六組 西光寺
とよしま まこと

豊島 信

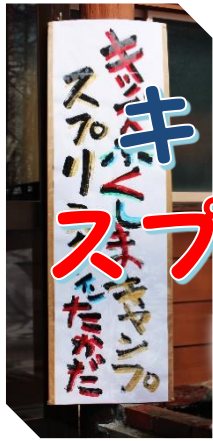
3月14日に、週末保養として家族と池の平青少年センターへ訪れた、福島のお父さんが話してくださった。「なぜ福島を離れ、ここに来たのかわからなくてもいい。小さい時、家族で行った池の平が楽しかったと、この子たちの記憶の片隅に残っていてくれればいい。今私たちがこの子たちでできることはそれしかないのかもしれない。」

思想家の内田樹氏の勤めていた神戸女学院大学に、同校出身の85歳のおばあさんが4億円の遺産を寄付されたことがあったという。60年以上前に受けた教育、当時の先生、学びの場に感謝し、今を生きる若い人たちの学びに

役立ててほしいという願いからだろう。マーケティングがすぐに反応を示す結果と違えば、教育というのは結果がすぐに出るはずもなく、ましてどのような効果をもたらしたのかなどは判断のしようもない。しかしながら教育がその人の人格や人生に大きく影響を及ぼすことは間違いのないことだ。

「ここは学校じゃない」。キッズふくしまが始まってすぐに、スタッフの中から上がってきた言葉だ。することを与えられる学校と違い、子ども達が自発的に何かしたいことをスタッフがサポートするような、そんなキッズふくしまにしたいということが、4年経ってスタッフ間ではんとなく共通認識として芽生え始めているように思う。

キッズふくしまが子ども達の将来にどんな影響を与えるかは気になるところではあるが、そんなことは考えても仕方がない。それよりもなぜこのキッズふくしまが必要なのかを私たち大人がもつと真剣に考え、取り組んでいかなければならない。その評価が半世紀後に下される。



キッズふくしまインたかだ スプリングキャンプ 2015

2015年 3月25日～30日



再会と出会い！夕食を囲みながら
お話にも花が咲く



39人の子供たちは元気いっぱい
到着するなり、すぐさま雪合戦！



ウェルカムパーティーでは
スタッフによる寸劇を披露



スタッフ紹介



1日目 (3月25日)
池の平
青少年センター到着



2日目の朝
眠気が残る中布団を畳み、朝の感話とお参り
いっぱい食べて、いざ雪原へ！



2日目 (3月26日)
雪上運動会





雪上運動会

抜けるような青い空の下、雪上大運動会が行われました。そり遊びや雪合戦、雪洞や雪像づくりにも挑戦しました。大きな雪の滑り台やアスレチックも作って、思う存分雪を楽しんでもらいました。



スタッフ募集!

※ お問い合わせは事務局まで

実行委員会では随時スタッフを募集しています。

～池の平会場において～

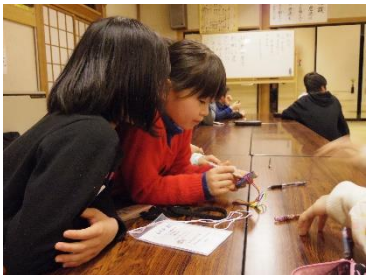
- ① 全日程通じての参加
- ② 短時間での参加
- ③ 食事の準備、片付け
- ④ 子どもたちと遊びたい人
- ⑤ 現地への送迎

～ホームステイにおいて～

- ① ホームステイの受け入れ
- ② 食事のみの提供（そば打ち、餃子、BBQなど）
- ③ 催し物や行事の提供（お講、子供会、陶芸教室、各種スポーツなど）
- ④ 資金の援助
- ⑤ 移動の送迎サポート



よろしくお願ひします!



夜は記念のメダル作り。木製メダルの下絵を描きました。みんな真剣に取り組みましたよ。



3日目 (3月27日)
朝ヨガメダル作り

朝食の後はメダル作りの続き。下絵を描いた木製メダルを彫刻刀で削り、絵の具で色付けをして完成。新潟での思い出の一品となりました。



3日目の朝は恒例のみんな朝ヨガ

スプリングキャンプに参加して

二本松市 小学4年生

あべ しゅん
阿部 瞬さん

僕は3月26日から31までの5泊6日で、キッズふくしまスプリングキャンプに行きました。今回は3回目の参加で早く雪で遊びたいとワクワクしていました。

センター1日目は、着いてからすぐに雪遊びしに外へ出ました。スタッフの人たちと雪合戦をしてたくさん遊びました。福島県にはこんなに雪がないので、手袋がびしょぬれになっても休まず遊びました。

2日目も雪遊びをしました。とっても大きな雪のすべり台でたくさんそりすべりをしたり、雪のアスレチックつくりをしたり、それを使ってレースをしたり、かまくらを作ったりしてとっても楽しかったです。

3日目で僕が一番心に残ったのは、メダル作りです。ちょうこく刀はまだ一、二回しか使ったことがなかったのですが、使ったことがなかったです。僕はDRAGON BALL (ドラゴンボール)

ル)に出てくる「プロローグ」というキャラクターをほり

ました。あまり上手に出来なかったけど大好きなので大切にしています。

ホームステイ先の新井別院でも楽しい思い出がたくさんつくれました。体育館でサッカーをしたり、モチつきや初めてのそばうち、人ろうゲームもみんなでやりました。忘れられない思い出がたくさんつくれてとてもよかったです。

この5泊6日、思い出をたくさんつくらせてくれてありがとうございます。次のサマーキャンプ2015も参加しますのでよろしくお願ひします。

サマーキャンプ2015
開催日決定!
7月30日~8月5日
(6泊7日)

池の平センターで3泊、
ホームステイ先で3泊の予定です

福島の子どもと

遊ぶと「イベント」と

まつはし みち

スタッフ 松橋 道

この3日間、新潟へ福島の子どもたちを呼んで、思い切り遊んでもらうキャンプという企画にボランティアとして参加しました。

お寺さんのネットワークで主催されているこのイベントは、今回で8回目。子どもたちも回を追うごとに成長しているそうで、初参加の私は可能な限り今後もこの企画に参加しようと思えました。

大人の利権の都合で、故郷を、遊び場を奪われた次世代の子どもたちに、役者としてではなく人間として何が残せるか、何をしてどんな世界を紹介出来るのか、ずっとこの4年間考えて来ました。実際に出来たことといえば、募金箱に釣銭を入れる事くらい。今年やっとこうした機会を得る事が出来て、私は泣きました。私は茨城県牛久市に生まれ、小学校時代はミニバスケットボールの練習試合で年がら年中いわきをはじめ福島の小学校で交流を深めてきました。また、舞台の仕事でも、福島に

は何度か訪れ、大切な友人たちもたくさんいます。

故郷に馳せる思いは、流され未だ見つかからない知人らの魂と共にあり、私がかねらのお墓の上で大の字になることしかできないのかと、悔しさでいっぱいだったのです。楽器ひとつ、声ひとつ、体ひとつで現地へ赴き踊りや音楽や歌で被災者を元気づけようと出来るような、ミュージシャンやシンガー、舞踏の友人たちを羨ましく思っていました。

役者は、設定や台本がなければ動けないと思ひ込んでいました。しかし、身ひとつで出来ることは、ここにあつたのです。こどもと思ひ切り遊び、大騒ぎをして同じ時間を過ごすこと。それだけで、こどもの笑顔や挑戦、小さなひとつひとつの成長と共にあることができる。

親元を12歳で離れ、孤独と寂しさに追い詰められた自分のような不登校の「おとな子ども」にだって、40になる今年、これまで生きてきた経験と価値観を紹介することで何か一歩家を出るきっかけとなることだって出来たのです。それは、「ひきこもり大学」というイベントで講師を務めることで実現しました。求めよさら

ば開かれん。そんな言葉を思い出した3日間でした。

この企画に関わる子ども、大人関係なく、より広く深い人生の知恵の発見につながる場としての、キッズふくしまの発展を願ってやみません。子どもとともに我々も成長を見せたい。そう考えています。



子どもとたちと
雪遊びをする松橋さん

次回は夏ですね。子どもらに「男か女かわからなくて気持ちが悪い」と言われ続けましたが、夏も言われに行きます(笑)。私は、性同一性障害と一般に呼ばれている人間ですが、子どもには隠すことなくまっすぐに伝えることで、差別やいじめをなくしていけると信じて生きてまいりましたし、そうすることによって激しい差別や拒絶の目にさらされてもきました。しかし、このキッズふくし

まスプリングキャンプでも、信念を曲げずそのように子どもとまっすぐ向かい合って言葉を交わしました。するとどうでしょうか。子どもの受容力の柔らかさには驚かされ続けます。はじめは訝しげで、「気持ち悪い」、「変態だ」と言っていた子どもたちが、何時しか親しげに私の愛称を叫び、遠くから「こつちで一緒に遊んで!」と、呼びかけてくれる。

この人、男だか女だかなんだかわからないと思ひながらも、それでもいいじゃん遊んで!と、仲間として受け入れてくれる。これが、様々な大人の常識に凝り固まった人間にできるでしょうか。子どもという存在は、こうした豊かで柔らかい、また真正面からの飾らず隠さない正直な態度を恐れず見せることに対して、説明など必要とせず心を開いてくれるその純粹さに、人間としての可能性の深さ、広さを感じさせてくれるものなのだ、改めて痛感する思いでした。

私のような子どもがいるかもしれないキッズふくしまに、今後も参加させていただけたらと思います。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



お寺のお講に参加

ステイ先での様子 ②



ご住職の紙芝居を聞きました



楽しい夕食の時間



上越妙高駅 謙信像前にて



協力寺院で夕飯を囲む



陶芸教室に参加



目の前で手品を見物

ステイ先での様子 ③



外で焼き芋もしました

「キッズふくしまインたかだ」の活動にご協力をお願いします！

「キッズふくしま」とは

「キッズふくしま」とは福島第一原発事故を機に始まった、福島県の子どもたちのための保養活動です。

現地の声には、「個人宅の放射能除染が未だに行き渡っていない」、「遊び場である公園に連れて行ったり、遊ばせたりする事が不安」などという声が聞かれます。また子どもたちからも「普段遊んでいた空き地は数値高いから遊べない」、「山に入っちゃいけないって言われた」等、大人は不安からのストレスに、子どもたちは遊び場を失うストレスに悩まされる日々が続いています。

「キッズふくしま」は、大人たちが便利という言葉にごまかされて思考を止め、本当の安全を追及して来なかった事や、原発事故、放射能汚染等の負のバトンを子どもたちに渡さなければならない事に対する「ごめんなさいから始める」活動です。子供たちが感じているストレスの軽減と、受けている内部被ばくの減少を目的として、たとえ一週間という短い期間でも汚染されていない地域で過ごし、思い切り遊んでもらいたいと思っています。

ご理解の程宜しくお願い致します。合わせて運営に対しての助成、またそれに携わるスタッフの知識習得及び技術の研鑽のための助成も募っています。

～皆様からのご寄附をお願いします～

- 郵便局からの振込 -

口座記号番号 (ゆうちょ銀行)

00500-1-101787

口座名 キッズふくしま たかだ

- 他金融機関からの振込 -

店番 059 (ゆうちょ銀行)

口座名 キッズふくしま たかだ

預金種目 当座

口座番号 0101787

ステイ先での様子 ④



近隣体育館でフットサル



本堂で朝のお勤め



餅つき大会と
そば打ち体験



ご家族の声

2015 スプリングキャンプが終わって

いわき市 在住

女性 Y・Eさん

今年5年生
になった息子
は、今回のキ
ャンプで5回

択しました。

あれから4年が経ち、生活をしていく内に「普通の日常」が戻ってきました。だんだん原発の話題が減り、

目の参加となります。同じクラスだったお友達に誘われたのがきっかけでこの企画を知ったのですが、原発事故で悩みながらの生活を続けていたので本当にありがたいことだと思いました。運動会は半日で終わり、学校でも外遊びの時間が決められ、食べ物はあるべく福島県から遠いものを選ぶなど、そんな事をする必要があるのか無いか分からな

いまま今なお続いていきます。見えない恐怖や先の分からない未来を考えることも疲れていました。県外出身の私は親戚からも心配されましたが、家族バラバラでは生活したくない一心でいわきに住み続ける事を選

近所に復興住宅の建設と今なお続いています。日々の生活に追われ立ち止まってもいられないわけですが、子ども達の健康を一番に考え、親として出来ることをしっかりと行なわなければならないと考えています。

キッズふくしま実行委員会の皆様には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。おかげで息子は今回も元気にキャンプから帰ってきて

次に新潟に行くのが楽しみで楽しみに仕方がない様子です。満面の笑顔を見せてくれる度に、このキャンプを続けていただいている事がどれだけ大変で苦労をかけているかと思えます。家族の様に毎回迎えてくれるキッズふくしまに関わるみなさん、本当にありがとうございます。

ホームページを開設しています

これまでの「キッズふくしまインたかだ」の取り組み、今後の予定などを、たくさんの写真と共に随時アップしています。ぜひアクセスしてみてください。

なお、この広報誌のPDFデータもアップしています。印刷・拡散いただければ幸いです。

<http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/>

※PDFデータは
カラー紙面です

